

教室の窓から～理科室～

先月、理科室の廊下の窓から見ていると、5年生の授業で「人の誕生」の授業が行われていました。この学習までに、子供たちは、植物の発芽や成長の条件についての実験を行ったり、メダカの誕生について卵を観察したりして調べてきています。しかし、この単元で対象となるのは、「人」です。しかも母胎内の胎児であるため、直接観察することはできません。授業では、子供たちが胎児の子宮内での成長について調べたことを基に、発表資料などを準備していました。理科専科の牛島先生も「調べた結果をもとに『帯西ブルーの心』がわかりやすくみんなにつたわるように工夫して発表しよう。」と子供たちにアドナイスをしていました。そして、子供たちは実際に映像を観ながら、お腹の中の赤ちゃんが動く様子に驚きつつも、生命の大切さについて実感していました。



そして昨日4日(火)、子供たちの発表にも参観させていただきましたが、子供たちは成長していく赤ちゃんの大きさや重さを、果物に例えたり、ペットボトルに入れた水の重さで体感したりしながら、発表をしていました。そして右写真のように、へその緒を紙粘土で作り、赤ちゃんや胎盤、そしてお母さんのへその緒に繋がっていることを提示し、メダカと違って、人は母親から成長に必要な養分をもらうことや不要な物を送り出していることを分かりやすく説明していました。



今の時代は、デジタルコンテンツで、人の誕生についての豊富なデータを集めることができますが、子供たちが発表したように、具体物を使って実感を伴って理解することが、生命を尊重しようとする心を育てていくのだと感心させられました。

緑の羽根募金へのご協力ありがとうございました

緑化委員会を中心に取り組んだ緑の羽根募金活動は、総額47,038円の浄財が集まりました。募金活動で集まった益金は、本校の緑化推進に役立てられ、花苗や用土、肥料等を購入しようと計画しています。ご協力ありがとうございました。



温暖化と海の関係

地球温暖化の要因の一つに、主に人間が出している二酸化炭素が挙げられます。実は、この温暖化を緩やかにしているのが海なのです。海は二酸化炭素を吸収する働きがあります。海を観ていると、ザップンザップンと波が起きていますが。この波は空気と海水が交じり合っています。そのときに二酸化炭素が海水に溶け込んでいるのです。しかも人間が出している二酸化炭素の3分の1は海が吸収しているといえます。しかし、二酸化炭素を吸収し過ぎると、海水が酸性となり、サンゴや貝類の殻の生成を邪魔し、ひいては魚たちの住み家を奪ってしまうのです。

だからこそ、私たち人間がもっと二酸化炭素を減らす努力をして、未来の海や地球を守る努力をしなければならないのです。

